

# 平成22年度第11回都市経営会議

日時 平成22年11月1日（月）10:00～11:45  
会場 市長応接室  
参集者 西尾市長 谷澤副市長 小柏副市長 多賀谷教育長 中林水道局長  
渡辺企画部長 上戸総務部長 片岡財務部長

## 議 題 事業レビューの総合評価に対する市の考え方および見直しの方針等について

◎対応 小林行政改革課長 松浦総務課長 小山内人事課長  
斉藤情報システム課長 山田保健所所長 辻参事  
北村恵山支所産業建設課長 水上主査 木村国際課長

### ◆ 議題の趣旨 ◆

平成22年度に実施した函館市事業レビューの総合評価に対して、各部の考え方および見直しの方針等がまとまったことから、その内容について協議しました。

### ◆ 協議の結果 ◆

見直しの方針等については、一部訂正することとしました。

### ◆ おもな発言 ◆

#### （1）公用車集中管理

#### ■ 小林行政改革課長

7月26日から9月1日にかけて行った函館市事業レビューの総合評価に対して、各部の考え方および見直しの方針等がまとまったので協議いただきたい。まずは公用車の集中管理について、総務課から説明させていただく。

#### ■ 松浦総務課長

総合評価は、全庁的かつ効率的な管理が必要、利用規程などのルール化が必要、委託の検討を行うべきとなっている。見直しの方針等は、各公用車の使用状況を把握したうえで平成23年度中を目途に一括管理の可能性について検討するとともに民間委託についても併せて検討する souhaiteい。

#### ■ 西尾市長

各部局で管理している公用車もあるのか。

■松浦総務課長

本庁舎にある 140 台の公用車のうち集中管理しているのは 43 台で、残りは事務連絡、現場調査、徴収事務などのために各部局で管理している。140 台全体で改善を図るべきとの意見もあった。効率化が図れるかもしれないので利用実態、稼働率などについて調査したい。

■西尾市長

一括管理になじまないものもあるのではないかな。

■小柏副市長

まずは実態調査が前提になるので早急に実態を把握するとともに、集中管理に回せるものは回すなどスピードを上げて対応してもらいたい。また、レビューを実施した以上、「可能性の検討」という曖昧な表現ではなく、「検討する」と表現すること。

■小林行政改革課長

再度調整し報告させていただく。

(2) 職員研修事業

■小山内人事課長

総合評価は、長期派遣についてコスト管理の検討、研修成果の報告・公開などの手法についての検討、派遣先についての検討をしていくべきとなっている。見直しの方針等は、研修生の住居が家賃も含め低コストになるよう努めるとともに、研修の成果等について市民にわかりやすく情報提供するほか、派遣先についても妥当性を判断しながら戦略的に選定するをしたい。

■西尾市長

派遣職員は、夜遅くまで仕事をしている。住居は、そうした勤務実態などを含め、一定程度職場の近くにある必要があるのではないかな。

■小山内人事課長

派遣先近郊の一等地に住むのが贅沢ではないかとの指摘があった。現在の住居は、派遣先近郊の場合、通勤時間は短いものの、狭い、古いといった状況であり、高額な家賃ではないと考えているが、派遣職員の勤務実態も考慮したうえで、より低廉な物件を探すようにしたい。

■西尾市長

若い職員にはチャンスがあれば外に出て色々吸収して欲しい。厳しい時代にこそ研修は必要なものだ。

■小山内人事課長

派遣研修については、ものの考え方や人的ネットワークなど得がたい財産になると考えている。レビューでは派遣先を減らすべきとの意見があった。今年度は11箇所派遣しているが、来年度はより妥当性を判断しながら戦略を持って絞り込みたい。

■小林行政改革課長

考え方としてはこの方針ですとすることで確認させていただく。

(3) 地域情報化推進事業

■斉藤情報システム課長

総合評価は、庁内 LAN 等の見直しを含めコスト削減を行う、ホームページの主管部局を明確にしていくべきとなっている。見直しの方針等は、庁内 LAN の管理運用について保守管理業務の委託化を含め効率的な運用が図られるよう検討するとともに、ホームページについては、広報業務を所管する部局への移管などについて検討するとしていた。

■西尾市長

庁内 LAN の管理はどのような業務があるのか。委託できるものなのか。

■斉藤情報システム課長

回線に接続できないとかウイルスなど日常的なトラブルの解決などが主な業務となっている。委託に際しては、具体的に悪い部分を指摘する必要があり、現状のように何が悪いのかわからない状態のものを解決するというような作業を委託することはできない。

■西尾市長

委託化のメリットがないのであればそう言うべきだろう。ホームページに関しては、それぞれの事業を把握しているのは各部局であり、広報課に任せるのは無理があるのではないかと。

■斉藤情報システム課長

当課においてはトップページの管理、デザインなどを所管しているが、何を載せる、載せないという判断をするのは難しい。どういう情報を出すのかというのは広報課の方が適任ではないかと考えている。

■西尾市長

各部局が広報したいものを取りまとめているだけなので広報課でも対応は難しいだろう。

■渡辺企画部長

個別のページはそれぞれの部局で作っているため書式が統一されておらず、見づらく市民が欲している情報が探せないと言われることもある。更新が滞っているページもある。

■谷澤副市長

ホームページは市の広報媒体として大きな位置づけとなっている。手をかけていく必要がある。

■西尾市長

分かりやすく作り替え良くなってきているが、部局によっては分かりづらいところもあるので良くして欲しい。

■片岡財務部長

検討したいとしているが、できること、できないことをはっきりさせた方がよい。

■小柏副市長

事業レビューの総合評価に対しての市の考え方なので、見直しが難しいものは、きちんとその理由を市民に説明する必要がある。

■西尾市長

広報課や情報システム課が実際にアクセスしてみて、分かりづらいところを指導するなど、やってみる価値があるのではないか。しかし一箇所に対応するのは難しい。「洗い直しをする」でいいのではないか。

■小林行政改革課長

「ホームページの主管部局を明確にしていくべき」との評価についての市の考え方は、「各部局ごとに課題等を洗い直す」こととしたい。

■片岡財務部長

「庁内 LAN の見直しについて検討する」としているが、具体的に記載する必要があるのではないか。

■小柏副市長

経費の見直しの部分が記載されていない。

■渡辺企画部長

必要なことは記載するということで調整して欲しい。

■小林行政改革課長

再度調整し報告させていただく。

#### (4) 市民健康づくり関係事業

■山田保健所所長

総合評価は、健康増進事業の必要性を尊重するとしながらも必要性のない事業については廃止を検討、職員の専門的な技術等を生かせる事業に特化すべきとなっている。見直しの方針等は、指摘のあった市民健康まつりについては、

市民ニーズへの対応について検証するとともに、新たな事業展開について開催主体である実行委員会に諮るほか、ウォーキングマップやいか踊り体操については、周知方法等を工夫しながら継続して普及啓発を進めるとしたい。

■西尾市長

保健所の健康づくり事業は、高齢者に元気でいてもらうために一番大切な取り組みである。きわめて重要であると言うべきであり、指摘に対してきちんと必要性を説明していかなければ職員のモチベーションも下がってしまう。市民健康まつりは多くの市民が集まっており、保健所の業務を知ってもらういい機会であり重要なイベントなのではないか。

■山田保健所所長

レビューの評価がこのように出てきたことから見直しの方針等を示したものである。市民健康まつりについては自分たちの中にも議論があり、見直しについて実行委員会に図ってきたところである。レビューをきっかけとして前向きになり、いいものになっていくのではないかと期待している。

■西尾市長

大切なことだということは示して欲しい。健康まつりにも多くの人 coming いる。

■山田保健所所長

まつりそのものではなく、健康意識をどう持たせるかが大切だと考えている。このことも含めて実行委員会に投げかけ、動きが出てきている。実行委員会を育てていきたい。

■西尾市長

いか踊り体操も快挙だったと思っている。

■上戸総務部長

レビューではコストも見ている。健康づくり事業が総花的であったりマンネリ化しているなどという所もあるのではないか。

■小林行政改革課長

再度調整し報告させていただく。

(5) 犬による危害防止等対策事業

■山田保健所所長

総合評価は、事業の継続は必要としたものの動物愛護施策を強化すること、焼却炉については有料化または廃止の検討をすべきとなっている。見直しの方針等は、動物愛護意識の向上のため啓発等に努めるほか、犬抑留所の整備に努めるとともに、現在の環境部の焼却炉では動物の死体を完全に処理することが出来ず当面現行のまま対応せざるを得ないため、犬抑留所の焼却炉の有料化の可否について検討を進めるとしたい。

■片岡財務部長

環境部の焼却炉の利用もあるが、犬抑留所の維持補修費も多額となってきたので、有料化の検討も必要だ。

■山田保健所所長

環境部からは、新たな焼却炉に更新する際には検討したいと聞いている。

■西尾市長

犬猫も生き物であり、廃棄物処理というのはただけない。やはり必要な施設ではないか。

■小柏副市長

有料化は必要ではないか。

■山田保健所所長

年間の処理数に占める飼い主からの依頼による死体処理の割合は2割程度となっており、収入としてはあまり期待できない。また不法投棄が増えるなどのデメリットも想定されるため、慎重に検討していきたい。

(6) 恵山海浜公園維持管理

■北村恵山支所産業建設課長

総合評価は、必要性の高い施設として維持していくべき、運営にあたっては透明性を有したデータ管理をすべき、指定管理者などの民間活力の導入について強く検討すべきとなっている。見直しの方針等は、維持管理を徹底するとともに、より実態に即した利用者数の把握に努めるほか、指定管理者制度の実施に向けて準備を進めていくとしたい。

■西尾市長

施設の性格から利用者数は把握が難しいのではないか。

■北村恵山支所産業建設課長

レビューにおいて委員から求められたため売店のデータに補正係数をかけて求めた推測値を示したが、実態と合っていないのではとの指摘を受けたところである。

■小柏副市長

防災や自然とのふれあいという側面もある施設であり、利用者数が全てではない。数字の議論をする必要はないのではないか。

■北村恵山支所産業建設課長

道の駅として施設の利用形態が多岐にわたっており、また出入り口も多数あることから推計だということを説明したのだが、補正係数の算出方法も疑問があるということで理解してもらえなかった。



■小林行政改革課長

「利用実績の少ない施設は見直しが必要」という考えもあり、事業レビューにおいて議論となった。委員は、レストランやキャンプ場、屋内遊戯施設などコストがかかっている施設との認識がある。広場の管理だけならそこまでの議論にはならなかったと思う。

■西尾市長

地域の憩いの場ともなっている。少し乱暴な議論ではないか。

■小柏副市長

必要性について記載すべき。利用者数の把握よりは、管理費用の縮減やレストランをどうするかなど具体を記載すべきだろう。

■中林水道局長

経費が高いのであれば指定管理者に任せていいのではないか。

■小柏副市長

施設そのものをどうするかについては行政改革課と整理して欲しい。場合によっては指定管理者も考える必要があるだろう。

■小林行政改革課長

改めて調整し報告させていただく。

## (7) 国際化施策推進事業

■渡辺企画部長

総合評価は、姉妹都市交流事業に関する見直しを図るべき、コストの削減に努めるべき、海外を対象とした業務を行っている部局と十分に連携を図るべきとなっている。見直しの方針等は、市の訪問団の編成を工夫し費用対効果も精査の上実施するとともに、事業の実施にあたっては可能な限り経費節減に努めるほか、海外を対象とした業務を担っている各部局相互の情報の共有化や連携強化に努めるとしたい。

■西尾市長

親書だけでいいとはならないことも多い。首長が直接訪問することにより交流が深まり、市民レベルの交流にもつながる。クリスマスファンタジーの際に毎年ハリファックス市から送られてくるモミの木は、先方にかかなりの負担がかかっているはずだが、直接訪問した際に向こうの議会でスピーチする機会を設けてもらうなど大変な歓迎を受けた。こうした交流が今後につながっていくものだ。

■渡辺企画部長

そのような事業の概要については、委員にも説明した。

■小柏副市長

必要な反論は記載する必要がある。

■西尾市長

今も極力費用を抑えて実施しているが、「適切に安価で訪問する」とすべきだろう。直接訪問する機会をなくしてしまうと交流自体が切れてしまう。

■小林行政改革課長

全体を通して、必要に応じて市の考え方をはっきりと出すことと、もう少し具体的な方針があればそのことを記載するよう調整させていただく。